

編集後記

企業の大型合併が相次いでいる。例えば石油業界、日本石油と三菱石油の合併では数十年ぶりに復活したCMソングの歌詞までが変えられ何か落ち着かないが、石油精製施設、油槽所の統廃合、輸送用タンクローリーの共通化など、当面、物流合理化による経費削減だけでも数十億円規模に達するという。今後はさらに過剰な供給能力の削減を図り、人員整理を進め、乱立気味のガソリンスタンドの淘汰が果たされることになる。まさにリストラクチャリングである。

連結有利子負債2兆円の日産自動車に、フランスのルノーが救いの手を差し伸べた。6000億円程の資金で肩の荷を軽くした日産自動車は、経営改善のために村山工場の閉鎖など全世界で2万人以上の人員削減を計画している。自動車業界に課せられている環境対策技術、ハイブリッド、フューエルセル、CVTなどの開発を考えると、莫大な資金を賄うためには大きな組織、巨大な資本金が前提となる。「400万台クラブ」に名を連ね、規模の経済性を獲得できるところだけが生き残るという神話まで生まれてしまった。

目を物流業界に転ずると、日立物流と福山通運の業務提携である。東の専門店と西のチェーンストアが手を結び、お互いのメリットを生かそうとする動きである。また、西濃運輸とシェンカー、日本通運とフェデックスといった国際的な提携、合従連衡が進みつつある。「大きいことはいいことだ」の時代に逆戻りすることはあるまいが、今世紀最後の1年はどのような年になるのだろうか。

(1999年12月 古井)